

国際サマーホームステイ in OKAYAMA2024

期間：令和6年7月30日(火)～8月5日(月)

※サンノゼ市は4日(日)、洛陽市は6日(火)まで

岡山市の5つの国際友好交流都市・地域から46名の子どもたちが岡山市を訪れ、市内の46家庭でホームステイを行いました。また、市内の中高生46名と交流プログラムを行い、桃狩りや寿司づくり体験、地元中高生との交流体験活動などを行い、子ども同士の交流と国際理解を深めました。

＜参加した子どもたち＞

サンノゼ市 6名

プロヴディフ市 8名

洛陽市 8名

富川市 8名

新竹市 8名

グアム準州 8名

7/30

ウェルカムパーティ

ホストファミリーと対面しました。



各都市代表の挨拶



ウェルカムパーティ



獅子舞演舞鑑賞

7/31

交流プログラム1日目

午前は国際交流ボッチャ大会、午後はオリエンテーションを行い各都市について紹介しました。夕方には市役所や議場を見学しました。



ボッチャ大会



オリエンテーション



議場見学

8/1

交流プログラム2日目

午前に桃狩りをし、お昼には寿司づくり体験をしました。午後は岡山城と後樂園を散策し、抹茶体験も行いました。



桃狩り



晴寿司づくり



岡山城見学

8/2

交流プログラム 3日目

午前は岡山後楽館中学・高校を訪問し、吹奏楽部の演奏を聴いたり、なぎなたを体験したり、生徒と交流をしたりしました。午後からは岡山の生徒が事前に考えた行程に沿って、班別に分かれて岡山市内外を散策しました。



後楽館中学・高校での都市紹介



なぎなた体験



班別行動に出発

8/3

～

8/4

子どもたちはホストファミリーとともに週末を過ごしました。

8/4

～

8/6

それぞれの思い出を胸に帰国しました。



プロヴディフ市



富川市

海外参加者の感想

- ・様々な国の人達と出会えました。多くの交流プログラムは私たちをつないでくれました。岡山の歴史だけでなく、他の都市の歴史についても学ぶことができました。（サンノゼ市参加者）
- ・個々の交流活動は非常に貴重な体験でした。特にペアと寿司体験はとても楽しかったです。（新竹市参加者）

交流プログラム参加者の感想

- ・来た生徒はもちろん、自分と同じように国際交流に興味のある岡山の生徒にも出会えたことがよかったです。
- ・班別自主研修は複数の都市の子と話せて楽しかったです。

ホストファミリーの感想

- ・家庭に1週間滞在するということで大変かなと覚悟していましたが、平日の昼間は交流プログラムもあって仕事をしながらでも少しの努力で受け入れられました。
- ・ホストファミリー同士で助け合ったり、一緒に過ごしたりして、思ったより負担はありませんでした。
- ・せっかくだから岡山を案内しようと調べてみると初めて行く場所もあり、地元の良いところを再発見できたのも収穫でした。

「やさしい日本語」普及事業

「やさしい日本語」は、外国人はもちろん、小さな子どもや高齢者、障がい者など、いろいろな人に配慮したコミュニケーション方法の一つです。11月15日の講座では、市民・市職員など合わせて51名が参加し、国や県・市のデータを見ながら、外国人を取り巻く状況について聞いたり、「やさしい日本語」に関する様々な動画を見たりしながら、誰にでも分かりやすいコミュニケーションのあり方について学びました。また、2月21日の講座では、公民館でのサテライト会場も含め92人が参加し、災害時に外国人が直面する課題や伝えたいことをわかりやすく、やさしく伝えることの大切さなどについて学びました。



第1回 共生社会に向けた「やさしい日本語」の活用と普及
～誰でも分かりやすいコミュニケーションのあり方～
11月15日 講師：中東 靖恵 さん



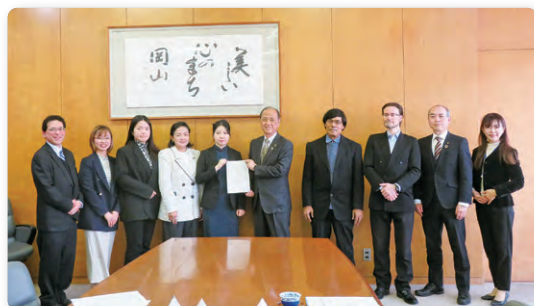
第2回 災害時に役立つ「やさしい日本語」
2月21日 講師：土井 佳彦 さん

第7期岡山市外国人市民会議

岡山市では、地域社会の構成員である外国人市民の生活上の諸問題及び多文化共生社会の実現に関する諸項目について審議することを目的に、岡山市外国人市民会議を設置しています。令和6年度は4回の会議を行い、1月7日に2年間の審議を経てまとめた提言書を岡山市長に提出しました。



外国人市民会議の様子



提言書を市長に手渡す

災害対応スタンプラリー（11月16日）

スタンプラリーをしながら災害対応について楽しく学ぶ「災害対応スタンプラリー」を開催しました。外国人市民22人、日本人36人が参加し、同じグループになった人たちで「次はどのブースに行こうか」などと相談しながら、地震体験車や水消火器体験、防災クイズ、多言語Webハザードマップ、消防団、避難所体験、災害ボランティア展示などのブースを回りました。参加者もブースの協力者も、災害時の外国人支援について改めて考えるきっかけとなりました。



水害対応着せ替えゲーム



地震体験車